序　文

昼飯大塚古墳の発掘調査は昭和55年度に始まりましたが、平成６年度からは史跡指定と整備を念頭に、保存を目的とした範囲確認調査を毎年度実施してまいりました。その結果、この古墳は４世紀後半に築かれた東海地方でも最大級の前方後円墳とわかり、具体的な埴輪の配列や葬送儀礼などに使われた遺物についても明らかにすることができました。

こうした調査結果から、このたび国から、国内的にも価値が高く重要な古墳として国史跡に指定されました。本市にとりましては、史跡としては大正10年に美濃国分寺跡が指定されて以来のことであり、貴重な史跡を保護・活用していく責任を感じているところでもあります。これまでに用地の取得や発掘調査にご理解とご協力を賜りました地元の関係者の皆さまや自治会、そして調査や整備についてご指導をいただきました文化庁および岐阜県教育委員会、調査整備委員会の先生方に厚くお礼を申し上げます。

平成12年８月

大垣市教育委員会
教育長　子安一徳

例　言

1．本書は平成11（1999）年度に実施した昼飯大塚古墳の環境整備事業に関する報告書である。ただし、後円部頂については平成10（1998）年度事業の成果も含んでいる。
2．事業に伴う発掘調査は、国庫補助事業市内遺跡として国・県から補助を受けて、大垣市教育委員会がおこなった。調査は平成11年度で７次を数える。
3．調査は中井正幸（大垣市教育委員会文化振興課）が担当した。
4．調査は平成11年８月２日から11月15日まで実施した。
5．磁気探査は、亀井宏行氏（東京工業大学）と桜小路電機有限会社のご協力を得て実施した。
6．葺石の分析は、橋本清一氏（京都府立山城郷土資料館）のご協力を得て実施した。なお、葺石の記録は、前年度までと同様にデジタル化して保存と活用に備えた。
7．竪穴式石室内部の写真撮影は、寿福滋氏のご協力を得て実施した。そのほかの写真は主として中井が担当した。
8．鉄製品の取り上げは塚本敏夫氏（財団法人元興寺文化財研究所）のご協力を得て実施した。
9．本書の執筆は、中井・東方仁史・中條英樹・岩本崇・阪口英毅・林正憲・魚津知克・遠山昭登・中川敬太・橋本英将・大野壽子・北口聡人（執筆順）がおこなった。編集は、中井の指示のもと阪口（京都大学埋蔵文化財研究センター）が担当した。分担は文末に記した。製図には高木清生の協力を得た。
10. 本事業の体制と参加者は以下の通りである。

【昼飯大塚古墳調査整備委員会】
八賀晋　福永伸哉　小野健吉　岸本直文（オブザーバー）　川部誠（オブザーバー）

【現地調査指導】
近藤義郎　白石太一郎　高橋克壽　伊達宗泰　森下章司

【調査参加者】
魚津知克　大野壽子　北口聡人　阪口英毅　清水美智子　高木清生　高橋イトエ
中條英樹　遠山昭登　所佳子　中川敬太　中川つる　中村敏朗　中村美紀　橋本英将
林正憲　東方仁史　弘岡政夫　福田治子　星津さやか　本多博道　牧村玲子
宮崎雅充　森たかゑ　山岸岳　山本恵子　吉村敬子　渡辺令子

目　次

Ⅰ　平成11（1999）年度の事業 …… 1
Ⅱ　第７次調査の概要 …… 2
　１．後円部頂の調査〈第６・７次〉 …… 2
　　（１）埴輪列
　　（２）墓　壙
　　（３）盗掘坑
　　（４）竪穴式石室
　　（５）粘土槨
　　（６）墓壙内西部の鉄製品群
　２．後円部墳丘の調査〈第７次〉 …… 4
　　（１）17トレンチ（拡張区）
　　（２）13トレンチ
　３．くびれ部の調査〈第７次〉 …… 6
　　（１）11トレンチ（拡張区）
　　（２）18トレンチ（拡張区）
　４．出土遺物 …… 8
　　（１）埴　輪
　　（２）鉄製品
　　（３）石製品・玉類
　　（４）中世以降の土器
Ⅲ　墳丘・周壕形態の復元 …… 11
Ⅳ　第７次調査までの総括

現地説明会風景（13トレンチ）

表紙：竪穴式石室内部（西から）〔撮影 寿福滋〕　裏表紙：鉄製品出土状況（東から）